平成 27 年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立十王中学校　教諭　中室　健治

1　研修期日　　平成 27 年 11 月 10 日（火）
2　研修先　　つくば市立竹園学園竹園東中学校
　　つくば市竹園 3 丁目１１
　　http://www.tsukuba.ed.jp/~takezono-j/
3　研修内容

つくば市学校 ICT 教育 40 周年記念 21 世紀の学びを変える ICT を活用した小中一貫教育研究大会

（1）研修選定の理由

竹園東中学校では，児童生徒用として配付される「学びのスキル系統表」に沿った 9 年間の連続した自律的学びが実践されている。中でも，主眼を置いている「メタ認知」を進めるために導入されているタブレットを用いた授業では，課題を児童生徒が視覚的に理解するために役立つ様々なソフトが活用されている。このような情報教育と教科指導の融合が，今回の研修目的に最適であると考えたため，研修を行った。

（2）実践事例

主にタブレットを用いた，ICT 教材（ソフト）を紹介する。

①STUDY　NOTE

撮影した画像に直接書き込みをしたり，ファイルとしてまとめたりすることでプレゼン型の授業で活用できる。情報活用能力を向上させるツールとして各教科で用いられていた。また，調査したりまとめたりしたデータを，電子掲示板に掲載することで，他のグループとの情報交換を活性化することができる。作品の共有などは，市内のどの学校からもアクセスし，互いに鑑賞することができるようになっているため，多様な意見に触れ，思考を深めるために役立っていた。

また，その拡張型として用いられる「スタディネット」も，ICT 活用型授業の有効な実践例の一つである。これを用いて，複数の考え方や解き方などを，スクリーンで比較，共有することができる上に，アンケートの投票結果を即時集計，開示することもできる。タブレットと電子黒板を効果的に組み合わせた授業展開が可能である。

②ONE NOTE

画像をシェアするのに用いられていた。タブレット間での簡単な共有はもちろんのこと，他校との情報交換にも用いられており，学校間の繋がりを深めながら授業を展開するのに役立っている。

③見ん者（見くらべマスター）

体育の授業や部活動指導で使われているソフト。タブレットで起動し，動画撮影するのに用いる。お手本として保存した動画と，自分の動きを見比べながら修正することができるので，効率的に自分の課題を知ることができる。気付いたことやアドバイスなどの加筆も可能である。

④Coach’s Eye

見ん者と同様，体育の授業や部活動で，自分の動きを確認するのに使われる。撮影した動画を任意の部分で停止し，メモを自由に手書きで書きこむことができる。保存した動画をタブレット間でシェアすることもできる。今回の授業参観で直接確認できなかったのが残念だったが，これは，タブレットさえあればすぐにダウンロードして使える上に，部活動単位で導入できるため，気軽に始められそうな印象を受けた。

⑤スカイプ

よく知られているツールだが，市内の研究所や海外の日本人学校と定期的に交流を行ったり，テレビ会議を行ったりしている。

⑥U Pad

手書きで書きこまれた意見を，全体でシェアするのに用いられる。グループごとの意見をまとめてスクリーンに表示させる形式で使われていた。黒板に書かせる授業形式と変わらないが，修正が簡単であること，教師のアドバイスや言い換え，まとめなどを上書き形式で書き込めること，それらのデータを保存しておけることなどがメリットである。

（3）公開授業参観

○　7年生（中学1年生）社会

オーストラリアにアジアからの移民が多い理由について仮説を立て，調べた結果をU Padでシェアしていた。ICT教材自体の使用には生徒自身が慣れているため，特別な説明はなく，課題に取り組む時間が確保されていた。まとめた意見についてグループごとに意見交換するなど，授業形式はスタンダードなものだった。

○　7年生（中学1年生）英語

理想的な朝ご飯についての会話を，インタラクティブフォーラムと同じ小グループでの話し合い活動として行っていた。特徴的だったのは，会話を〈Sound Recorder〉で録音して，フィードバックする機会をその場で，グループ毎に行っていたことである。言いたくても言えなかった，という表現をすぐに思い出してメモし，次の会話表現に生かせるような形態になっていた。

○　8年生（中学2年生）総合的な学習の時間

スカイプを用いて中国にある中学校の生徒と情報交換していた。それぞれの町の特徴的な行事や，その行事に自分たちが授業の一環としてどのように関わってきたかを発表し合うという形式だった。発表の際に用いた映像資料などは，自分たちで撮影したものやスタディノートのポートフォリオ形式だった。

特筆すべきだと感じたのは，つくば市内では全ての学校において，1年生から9年生（中学3年生）までの児童生徒たちが，スタディノートを用いた授業を経験しているということである。7年生が2年生に教える授業もあり，このソフトがつくば市の情報教育に不可欠なものになっていることがうかがえた。

また，こうしたまとめ型の授業を繰り返し，日常的に行うことで児童生徒がこのツールに慣れ，多様な表現を試みるようになることも興味深いと感じた。つくば市では毎年，スタディノートによってまとめた資料を競うプレゼンテーションコンテストが行われている。資料の構成や文字の大きさ，色，発表の際の注意点など，多角的に評価されることで，より高いレベルでの情報処理，活用能力を育てることがねらいである。

○　9年生（中学3年生）英語

あらかじめスタディノートで作成した資料をもとにプレゼンテーション型の授業を行っていた。

生徒たちは4つのグループに分かれており，2つずつのグループで，それぞれディベートを行っていた。意見についての質疑応答も英語で行っていた。グラフや画像を用いることで，説明を最小限にとどめていたことは，授業の形態としても，英語使用としても理想的だと感じた。

こうした活動では，発表者として話し過ぎてしまう生徒や，逆にディベートに参加できない生徒が出てきてしまうのが欠点だが，この授業内では，集中できなかったり，諦めたりしてしまう生徒はみられなかった。こうしたモチベーションの維持も日頃の指導の成果なのだと感じた。

4　感想

今回の研修ではICTの活用方法に主眼を置いたレポートとなったが，他の側面からみても先進校とされる竹園東中学校を視察できたことで，自分自身の授業の構成を向上させるための多くのヒントを得ることができた。特に，生徒自身が学習内容全体を見渡し，自分の課題がどこにあるかを俯瞰するような「メタ認知」の考え方を取り入れたカリキュラムは，どの教科でも活用できる具体的な取り組みの一つだと感じた。また，Wi-Fiを用いた授業が多いため，校内での私用の端末でのWi-Fiは禁止するなど，Wi-Fi環境の最適化にも配慮していることから，日常的な実践レベルでこれらのICTが使われていることがうかがわれ，導入の際のヒントにしたいと感じた。